

## 鷹峯の主な寺

鷹峯の主な寺といえば、常照寺と源光庵と光悦寺と円成寺である。[常照寺、源光庵、光悦寺、円成寺は、私の実家・大宮釈迦谷から比較的近いところにある。](#) 常照寺は吉野太夫ゆかりの寺、源光庵はまんまるい「悟りの窓」で有名なところ、光悦寺は本阿弥光悦ゆかりの寺で有名だし、円成寺は京都では「岩戸妙見」あるいは「妙見さん」として市民に大変親しまれている寺である。

これらのうち、常照寺と源光庵と光悦寺は、[Charleyという人](#)が非常に詳しく説明しているので、次をクリックしてご覧いただくこととしてほしい。私から補足説明をすることはない。

### [常照寺](#)

### [源光庵](#)

### [光悦寺](#)

ここでは、岩戸妙見について説明する。

岩戸妙見は、日蓮宗本満寺の末寺で、清雲山圓成寺と称する。1630年（寛永7）日任上人が岩戸妙見大菩薩現出の霊夢を感じ、北辰尊星玄武神を鎮安する霊地として開山、その際に平安時代より妙見大菩薩を祀っていた霊巖寺を再建したと伝える。

しかし、岩戸妙見宮の創建、変遷の詳細は不明。年代も不明だが、相当古いものらしい。

かつて鷹ヶ峰は、愛宕神社の旧地であり、葛野郡天津岩門別雅姫（あまついわとわけわかひめ）神社が賀茂川の上流・[雲ヶ畑](#)から勧請され、この地（鷹ヶ峰）に鎮座した。葛野郡天津岩門別雅姫（あまついわとわけわかひめ）は、かつての弁財天信仰により、雲ヶ畑弁財天社(弁財天社)、石戸別（いわとわけ）弁財天、雲ヶ畑弁財天ともいわれた。また、雲ヶ畑、中津川地域の産土産神だった。明治元年神仏分離令後の廃仏毀釈の折に、水神を祀る安芸巖島神社にあやかり、現在の巖島神社と改名され、弁財天は廃されたが、もともとは水を司る神・弁財天であったのである。

本社裏山に、二つの石門岩が祀られている。往古この岩に天津石門別雅姫が降臨したという。縄文時代の磐座信仰を基礎として、天津石門別雅姫を神とする弁天信仰が始まったの

である。岩戸妙見の裏山にも巖門（いわと）という磐座があり、岩戸妙見の地でも弁天信仰が始まり、雲ヶ畑の弁天神・天津石門別雅姫が勧請されたのであろう。

この鷹ヶ峰というところは、平安京は大極殿の北方にあたり、平安京の水源地域であったので、雲ヶ畑の弁天神・天津石門別雅姫が勧請されたものと思われる。

すなわち、平安時代、鷹ヶ峰は、平安京大極殿の北に位置したことから、北山と呼ばれ聖地になる。

839年、真言宗の僧・[円行](#)は岩戸妙見を勧請し、皇城北方鎮護、平安京総鎮守のための妙見大菩薩を祀る北山靈巖寺（れいがんじ）を開創した。

中世(鎌倉時代-室町時代)、靈巖寺は廃れるが、江戸時代の1630年、京都の日蓮宗本山・[本満寺](#)21世・[日任\(にっとう\)](#)に岩戸妙見大菩薩が顕れる霊夢があった。朝廷の信任が厚かった日任(にっとう)は、公卿・一条氏に働きかけた。そして、公卿・一条氏の寄進により、北辰尊星玄武神を鎮安する霊地として円成寺を開山されたのである。

近代、1868年、神仏分離令後の廃仏毀釈により荒廃した。その後、地元有志と[日解](#)らにより再興された。

では、岩戸妙見の境内にご案内する。



岩戸妙見の入り口



### 岩戸妙見の山門

境内もそうだが、山門のところの紅葉は美しい。

ご住職のお住まいになっている庫裏の庭には、  
とても素晴らしい紅葉がある。

私はちょっとしたご縁から、特別に拝見したことがあったが、  
庭の紅葉はとても素晴らしかった。



( <http://merosu.com/iwatomyokengu.html> による)

境内の様子については、適切な説明と見やすい写真を紹介してある次の素晴らしいホームページを紹介させていただく。この方のホームページには多くの寺院や神社などが掲載されており、次のものはその一部である。

<https://blogs.yahoo.co.jp/hiropi1600/49001409.html>

この方のホームページにおける説明文は次の通り。

さて、山門から真っ直ぐに参道が続き、正面に岩戸妙見宮（妙見堂）、左手に本堂、その他幾つかのお堂が立ち並んでいます。正面に妙見宮があるように、このお寺は本堂よりも妙見堂を主殿としてきたお寺です。

この境内の中央にある岩戸妙見宮（妙見堂）は、後ろが古墳状の石窟造りの珍しいお堂です。

内陣には大亀の背に足を踏まえ、右手に剣を左手に蛇を握り、頭上に北斗七世を戴いた六尺余の石造「岩戸妙見大菩薩」が祀られています。毎月1日、15日が縁日で開扉日とされ特別祈祷が行われています。

先程書いたように、円成寺では長く岩戸妙見宮が主殿で、庫裡が寺の本堂を兼ねていましたが、昭和十八年（1943）に、第十八世清蓮院・日明上人が信徒の外護を得て現在の本堂を竣工しました。しかしこの時の過労から日明上人は間もなく亡くなったと言うことです。本堂には一塔両尊の三宝尊と四菩薩（一塔両尊四土）の本尊と宗派・日蓮上人像が祀られています。

境内には常富殿（つねとみでん）、大国殿、巖戸（いわと）の滝、秋山自雲霊神(痔の神)等が点在しています。この内、常富殿（現社殿は昭和三十三年（1958）に信徒の寄付により建設）は、この地の地主神の木造常富稻荷大明神像を祀ります。この鷹ヶ峯の地は、妙見大菩薩の他にも、愛宕神社の旧地でもあり、式内社の葛野郡天津石門別稚姫神社（かどのぐんあまついわとわけわかひめじんじゃ）があり、また北山神の勧請地でもあった聖地ということで、日任上人が円成寺を創建した際に、この地の地主神として常富稻荷大明神を祀り、また巖戸（いわと）の滝を築造し修行したと伝えられます。

他に、面白いのは痔の神様の秋山自雲霊神です。

秋山自雲（しゅうざんじうん・あきやまじうん）は、本名は、岡田孫右衛門といい、江戸時代に摂津国に生まれ、後に江戸霊巖島の酒問屋・岡田家の下で奉公して見込まれて岡田家を継ぎました。晩年悪質な痔のために苦勞し、様々な治療も効果が無く、剃髪し浅草本性寺に籠り病氣祈願に努めましたが完治しないまま45歳で亡くなりました。死の前に

「自分が死んだ後に、痔病に苦しんでいる人を救いたい」と語り、以後、各地に痔の神様として祀られたようです。現在も全国各地で秋山自雲は祀られているようです。

なお、このホームページには掲載されていない写真もあるので、次のホームページも紹介しておく。岩戸妙見宮拝殿の他に、白雲弁天社、常富殿、大黒殿、秋山自雲霊神（痔の神様）、岩戸妙見宮拝殿前の池などの写真を見ることができる。両方のホームページを見ることによって、岩戸妙見宮にはいろいろなものがあるということが判る。いろいろなものがあるということは、それだけ歴史が古いということである。

<http://photo-clip.main.jp/photo/enjoji.html>

さて、冒頭に申し上げたように、岩戸妙見の裏山にも巖門（いわと）という磐座があり、岩戸妙見の地でも弁天信仰が始まり、雲ヶ畑の弁天神・天津石門別雅姫が勧請されたのであろう。現在、境内には巖門（いわと）の滝というのがあり、現在でも滝修行の場になっているが、古（いにしえ）の弁天信仰を偲ぶことができる。



巖門（いわと）の滝

( <http://blog.goo.ne.jp/kamyu-2006/e/c320f5587a1958c4ae559891fa71d7a7> による )



「巖門（いわと）の滝」の謂れを書いた看板

冒頭に述べた「天津石門別雅姫」の字が見える。

( <http://blog.goo.ne.jp/kamyu-2006/e/c320f5587a1958c4ae559891fa71d7a7> による)

以上縷々述べてきたが、岩戸妙見宮（円成寺）には大きく三つの信仰がある。妙見信仰の信者は参道の突き当たりにある妙見宮で祈りを捧げるといいし、日蓮宗の信者は本堂で祈りを捧げるといいし、弁天信仰の信者は「巖門（いわと）の滝」で祈りを捧げるといい。